

令和 2 年度 決算説明資料

令和 3 年 1 0 月 6 日
緑政土木局

目 次

	頁
1 弥富相生山線について -----	1
2 街路樹の維持管理について -----	7
3 交通事故防止重点対策について -----	8
4 未就学児の交通安全緊急対策について -----	9
5 自転車通行空間整備について -----	10
6 放置自転車の状況について -----	12
7 河川事業の3か年緊急対策について -----	13
8 新堀川の水質調査結果について -----	15
9 庄内緑地スケートパークについて -----	16

1 弥富相生山線について

(1) 現地保全に係る経費

年 度	決 算 額
平成 2 2 年度	千円 3, 3 6 7
平成 2 3 年度	3, 8 7 8
平成 2 4 年度	4, 1 6 3
平成 2 5 年度	3, 0 1 9
平成 2 6 年度	2, 7 9 7
平成 2 7 年度	3, 7 4 1
平成 2 8 年度	3, 5 2 8
平成 2 9 年度	3, 1 0 0
平成 3 0 年度	3, 0 2 7
令和 元 年 度	2, 9 8 3
令和 2 年 度	3, 1 4 5
計	3 6, 7 4 8

(2) 令和2年度の調査検討

ア 調査分析項目

(ア) 環境調査

- a 道路建設工事中断から10年を経た植生の変化
- b ヒメボタルの生息状況

(イ) 交通調査及びシミュレーション

- a 道路建設工事中断から10年を経た交通状況の変化
- b 道路の有無による交通状況の変化や住民が享受できる効果の予測

(ウ) 道路施設の点検

- a 施工済み構造物（擁壁、シェッド、橋りょう下部工）の健全性

イ 調査分析の主な結果

(ア) 環境調査

- a 植生は工事に伴う影響から回復傾向
- b 道路沿線のヒメボタル飛翔数は工事に伴い一時的に減少したが、現在は工事前以上の飛翔を確認し、幼虫、成虫、餌となる小型貝類の生息を相生山緑地全域で確認

(イ) 交通調査及びシミュレーション

- a 周辺の幹線道路の交通量は、南北で減少傾向であったが、東西で横ばいまたは増加傾向を確認
- b 救急車両の到着及び搬送時間の短縮や浸水被害時における住民の避難時間の半減を予測

(ウ) 道路施設の点検

- a 全体的には機能に支障が生じていない状態であるが、予防保全の観点から補修、修繕が望ましい箇所を確認

(3) 弥富相生山線の道路建設に係る学術検証懇談会

ア 主旨

弥富相生山線の整備に関し、平成22年に都市交通及び周辺環境について科学的な検証を行った。その後10年が経過し、状況の変化や最新の知見も踏まえた検証を改めて行う必要があることから、令和3年3月30日に学識者との懇談会を開催した。また、専門的な立場から多岐広範な意見も聴取した。

イ 出席者

氏 名	役 職
大 場 裕 一	中部大学応用生物学部教授
加 藤 博 和	名古屋大学環境学研究科教授
武 田 邦 彦	中部大学先端研究センター特任教授
寺 井 久 慈	元中部大学応用生物学部教授
林 良 嗣	中部大学先端研究センター教授
秀 島 栄 三	名古屋工業大学工学研究科教授
増 田 理 子	名古屋工業大学工学研究科教授
松 本 幸 正	名城大学理工学部教授
山 下 興 亜	中部大学名誉学事顧問
河 村 たかし	市長
堀 場 和 夫	副市長
伊 東 恵美子	副市長

(注) 役職は懇談会当時のもの

ウ 学術検証結果

(ア) 建設のプラス効果

- a 周辺道路の交通渋滞緩和
- b 相生山緑地へのアクセス向上
- c 救急車両の到着及び搬送時間の短縮等の交通輸送の効率改善
- d 緑地全体の防災機能の向上
- e 単一植生化への遷移速度の緩和

(イ) 建設のマイナス効果

- a 新たな交通渋滞や相生山緑地周辺での過密駐車等の道路交通関係に関わる影響
- b 乾燥化による生物相の貧困化、とりわけヒメボタルの生息環境の劣化

エ 主な意見

(ア) 名古屋市としての将来像を示す全体計画がないことで対立が起きている。

(イ) 道路をつくれば効果は出るが、中長期的には効果は減少する。

(ウ) 通り抜け交通について、もっと対策をとってほしい。

(エ) 相生山緑地をこのまま放置してはいけない。特に竹林の拡大に対しては措置が必要。

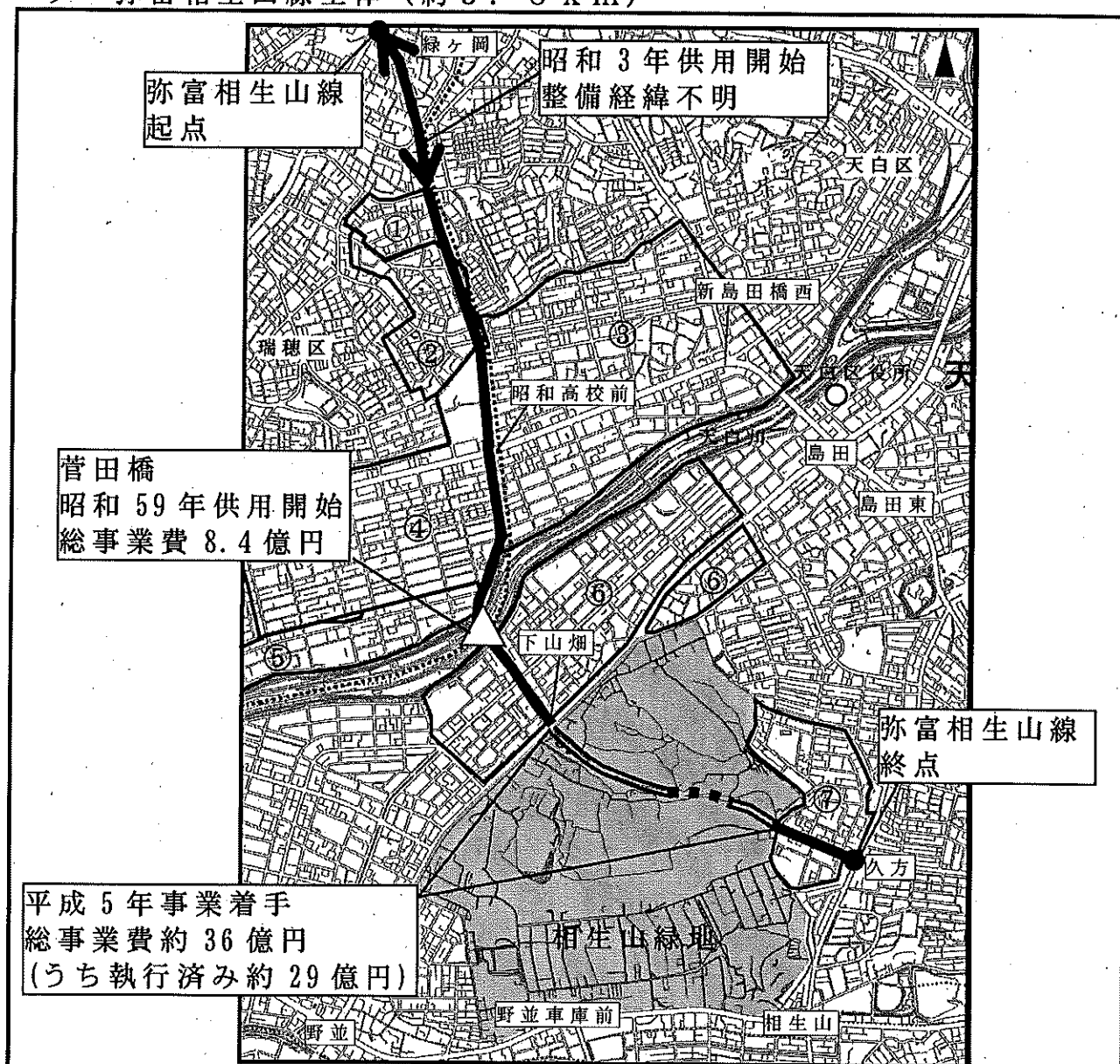
(オ) 地域の方々にとって必要な形で使えるようにすると良い。

(カ) 価値観が異なるため対立が収まることはない。現実的な解としては折衷案が必要と考える。

(キ) 折衷案のメリット、デメリットを市民に示し、デメリットをケアする必要がある。

(4) 整備概要

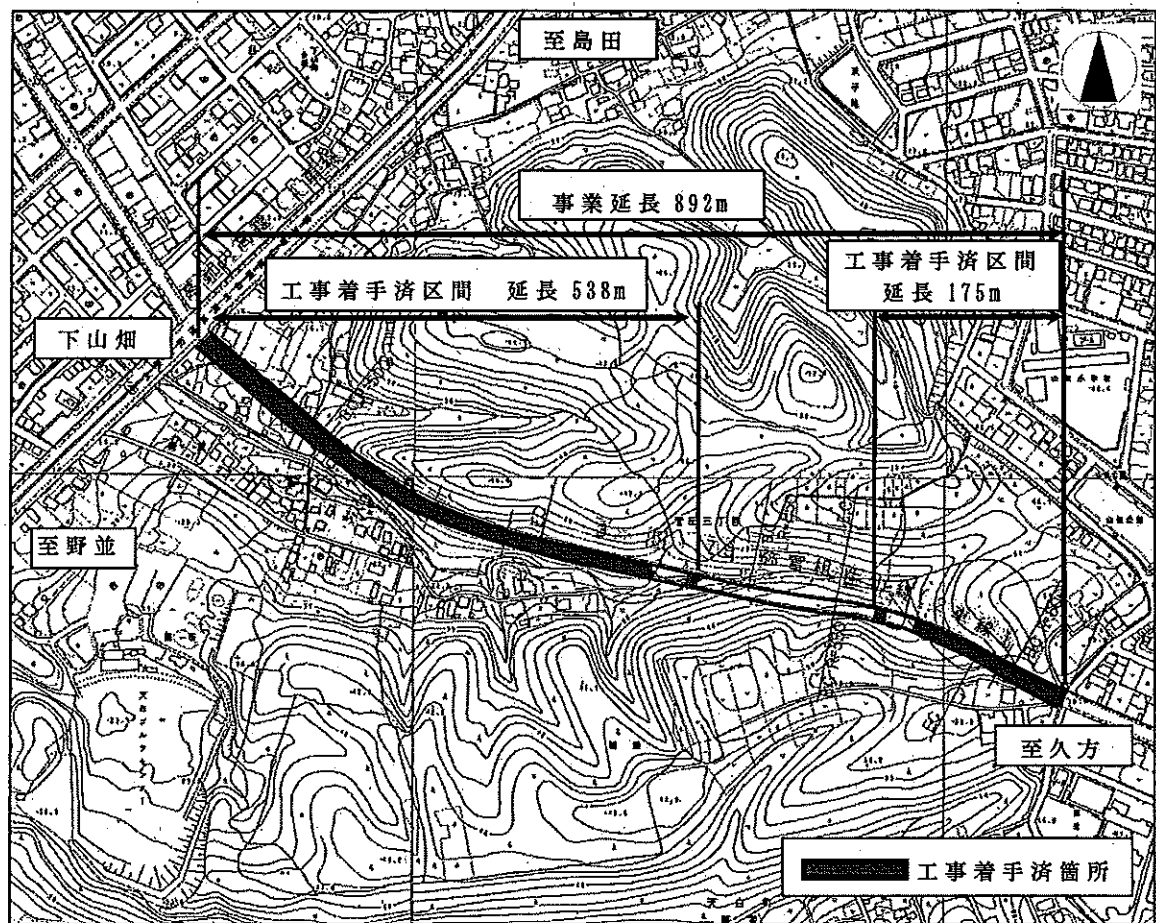
ア 弥富相生山線全体 (約 3.8 km)



番号	組 合 名	事 業 期 間	総事業費
			億円
①	八事南部一区	昭和17年 5月 2日～昭和35年 4月 1日	—
②	八 事 南 部	昭和35年 3月30日～昭和44年11月22日	0.8
③	下 八 事	昭和36年 4月22日～昭和47年 9月 8日	3.1
④	中 根	昭和15年 3月 4日～昭和35年 4月 1日	—
⑤	中 根 南 部	昭和39年10月 1日～昭和46年12月25日	3.9
⑥	菅 田	昭和53年 3月24日～平成 2年 3月29日	73.2
⑦	菅 田 南 部	昭和45年12月24日～昭和60年 3月30日	11.0

イ 平成5年事業着手箇所

(ア) 箇所図



(イ) 事業費

- ・ 総事業費 約 3 6 億円
- ・ 執行済額 約 2 9 億円
- (用地費 約 1 6 億円、工事費等 約 1 3 億円)

2 街路樹の維持管理について

(1) 決算額

事 項	平成 2 1 年度	令和元年度	令和 2 年度
除 草 清 掃 等	千 円 1,186,726	千 円 1,103,769	千 円 1,093,801

(注) せん定、刈込などを含む

(2) 住民意見

内 容	平成 2 1 年度	令和元年度	令和 2 年度
除 草 清 掃	件 265	件 521	件 554
樹木せん定	1,413	2,214	2,161

(3) 頻度

区 分		平成 2 1 年度	令和元年度	令和 2 年度
除 草 及 び 清 掃	歩 道 緑 地 帯	2 回 / 年	1 回 / 年	1 回 / 年
	中 央 分 離 帯	2 回 / 年	2 回 / 年	2 回 / 年
清 掃 の み	歩 道 緑 地 帯	10 回 / 年	0 回 / 年	0 回 / 年
	中 央 分 離 帯	10 回 / 年	0 回 / 年	0 回 / 年
中低木刈込		1 回 / 年	1 回 / 年	1 回 / 年
樹木せん定		1 回 / 1 ~ 3 年	1 回 / 1 ~ 3 年	1 回 / 1 ~ 3 年

3 交通事故防止重点対策について

区 分	主 な 内 容	金 額
生活道路	路面標示（十字マーク等）の設置 交差点のカラー舗装 ゾーン30の入口のカラー舗装	千円 94,772
幹線道路	路面標示（エスコートマーク等）の設置 交差点等のカラー舗装	33,680
計		128,452

4 未就学児の交通安全緊急対策について

(1) 対策箇所数

令和元年度	令和2年度
94	680

(注) 道路管理者が対応すべき箇所数は850

(2) 令和2年度の対策内容

区 分	主 な 内 容	箇所数	金 額
防護柵の設置	ガードパイプ 横断防止柵等	173	千円 245,782
路面標示の設置	十字マーク 路面標示シート等	451	109,518
歩道の整備	歩道拡幅等	10	100,110
道路標識の設置	通学路標識	4	873
そ の 他	ラバーボール等	42	5,730
計		680	462,013

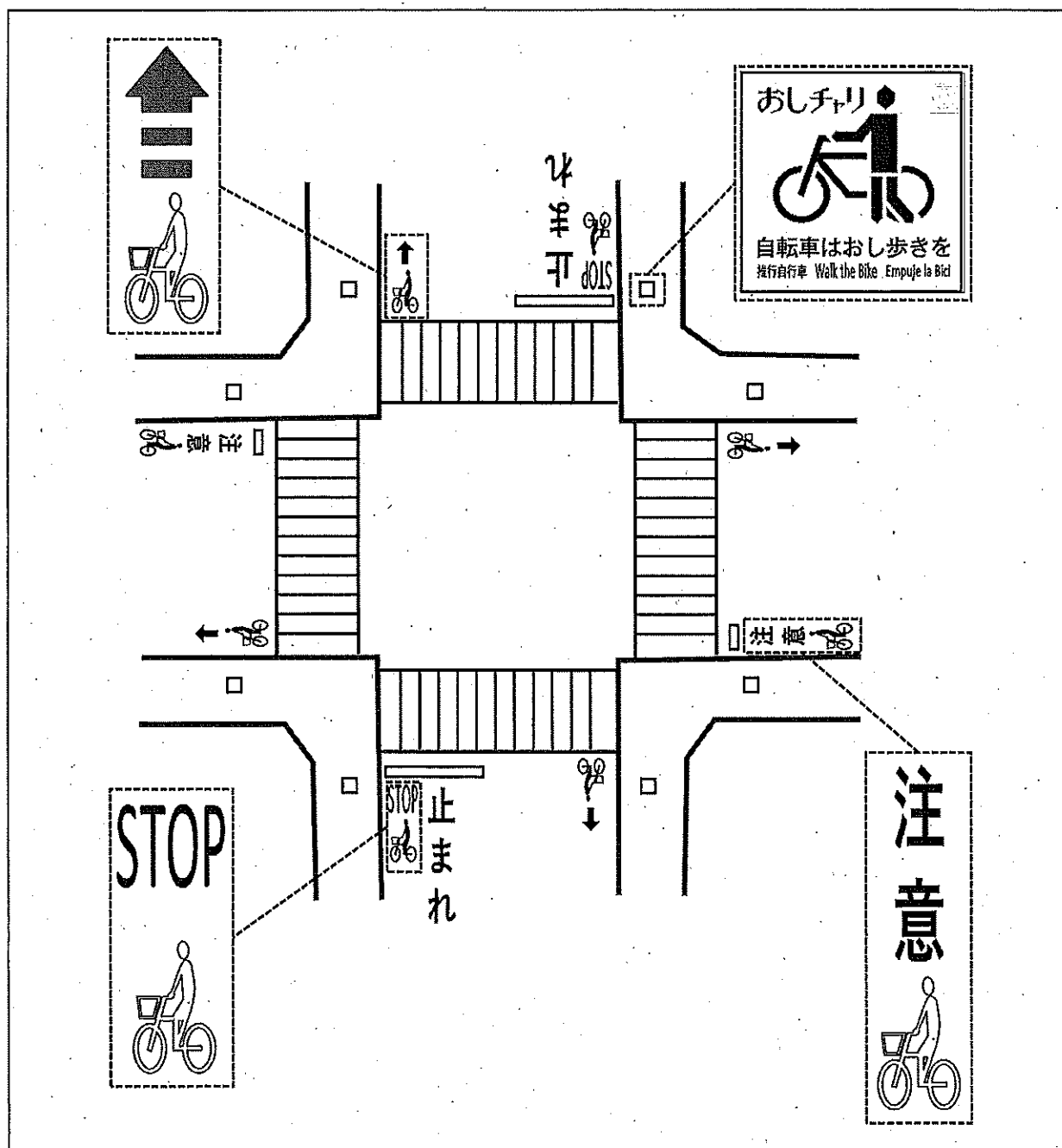
(注) その他の箇所数については、他事業等で対策したものを含む

5 自転車通行空間整備について

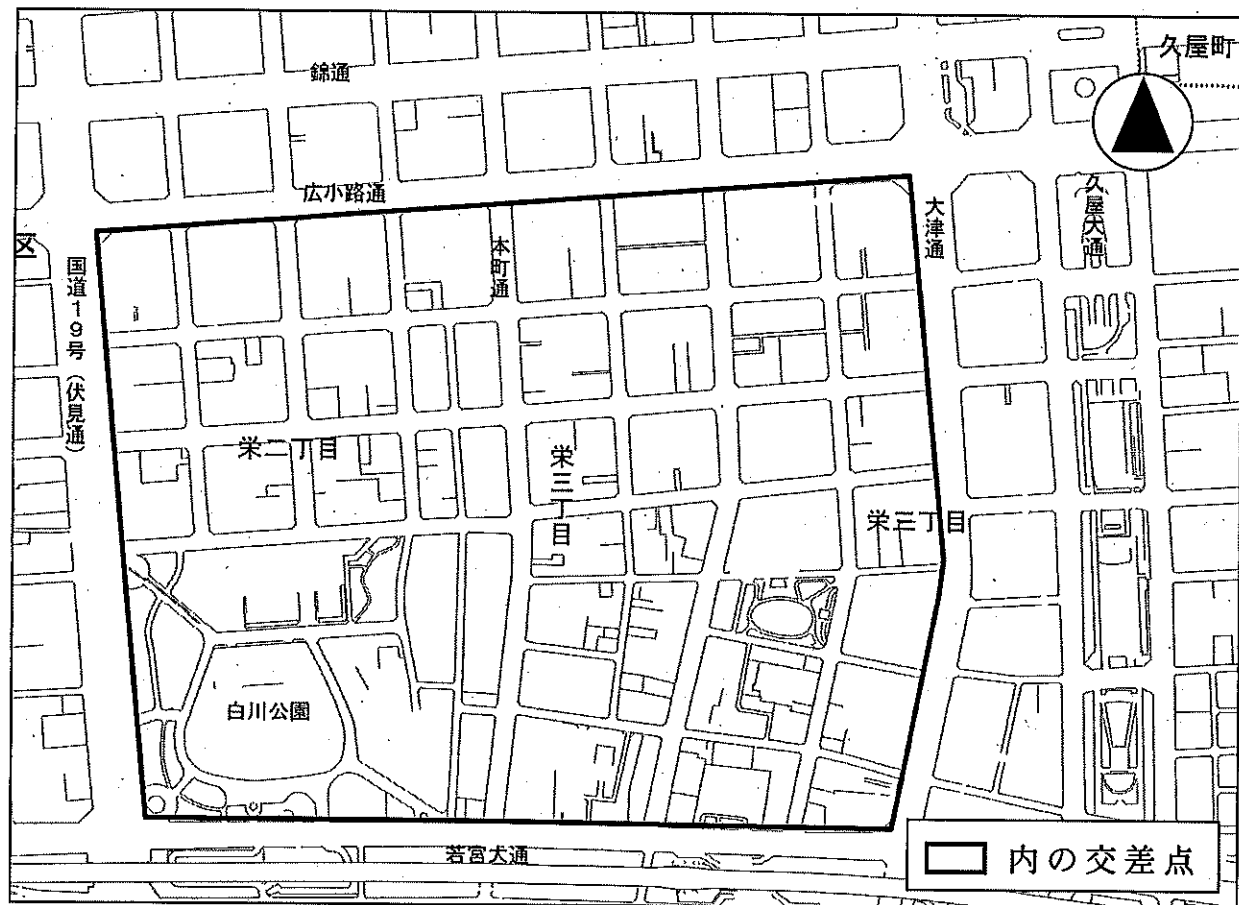
(1) 内容

交差点の車道には自転車のピクトグラムを設置し、歩道には歩行者優先を啓発する路面標示シートを設置

(2) イメージ



(3) 箇所図



6 放置自転車の状況について

(1) 令和2年度

駅名	鉄道事業者名	放置台数	全国順位
久屋大通	名古屋市交通局	926	—
上前津	名古屋市交通局	737	
栄	名古屋市交通局、 名古屋鉄道	733	
高岳	名古屋市交通局	721	
丸の内	名古屋市交通局	565	

(注) 放置台数は令和2年度自転車等駐車状況調査による

(2) 令和元年度

駅名	鉄道事業者名	放置台数	全国順位
久屋大通	名古屋市交通局	921	2
上前津	名古屋市交通局	829	3
栄	名古屋市交通局、 名古屋鉄道	817	4
高岳	名古屋市交通局	715	8
丸の内	名古屋市交通局	665	10

(注) 放置台数は令和元年度自転車等駐車状況調査による

7 河川事業の3か年緊急対策について

(1) 決算額

事業内容	実施河川	令和元年度	令和2年度
しゅんせつ 及樹木伐採	隅除川 山崎川 植田川 扇川 大高川 瀬木川 手越川	千円 123,697	千円 185,585
護岸整備 及河道掘削	堀川	1,648,449	2,380,696
	山崎川 (JR橋りょう)	354,910	456,420
堤防の 耐震対策	山崎川	281,900	390,330
計		2,408,956	3,413,031

(2) 実施内容と進捗状況

事業内容	実施河川	令和元年度	令和2年度	令和2年度末 進捗状況
しゅんせつ 及 樹木伐採	隅除川 山崎川 植田川 扇川 大高川 瀬木川 手越川	しゅんせつ 4,507m 樹木伐採 1,370本	しゅんせつ 6,860m 樹木伐採 2,505本	73.3% (注1)
護岸整備 及 河道掘削	堀川	護岸整備 338m 河道掘削 4,040m ³	護岸整備 437m 河道掘削 15,700m ³	44.6% (注2)
	山崎川 (JR橋りょう)	橋りょう改築 一式	橋りょう改築 一式 河道掘削 5,400m ³	完了
堤防の 耐震対策	山崎川	耐震対策 150m	耐震対策 210m	80.6% (注3)

(注1) しゅんせつを実施した河川延長をしゅんせつが必要な河川延長で除した割合

(注2) 1時間あたり63ミリの降雨に対応する整備を完了した割合

(注3) 堤防耐震対策を実施した延長を堤防耐震対策が必要な延長で除した割合

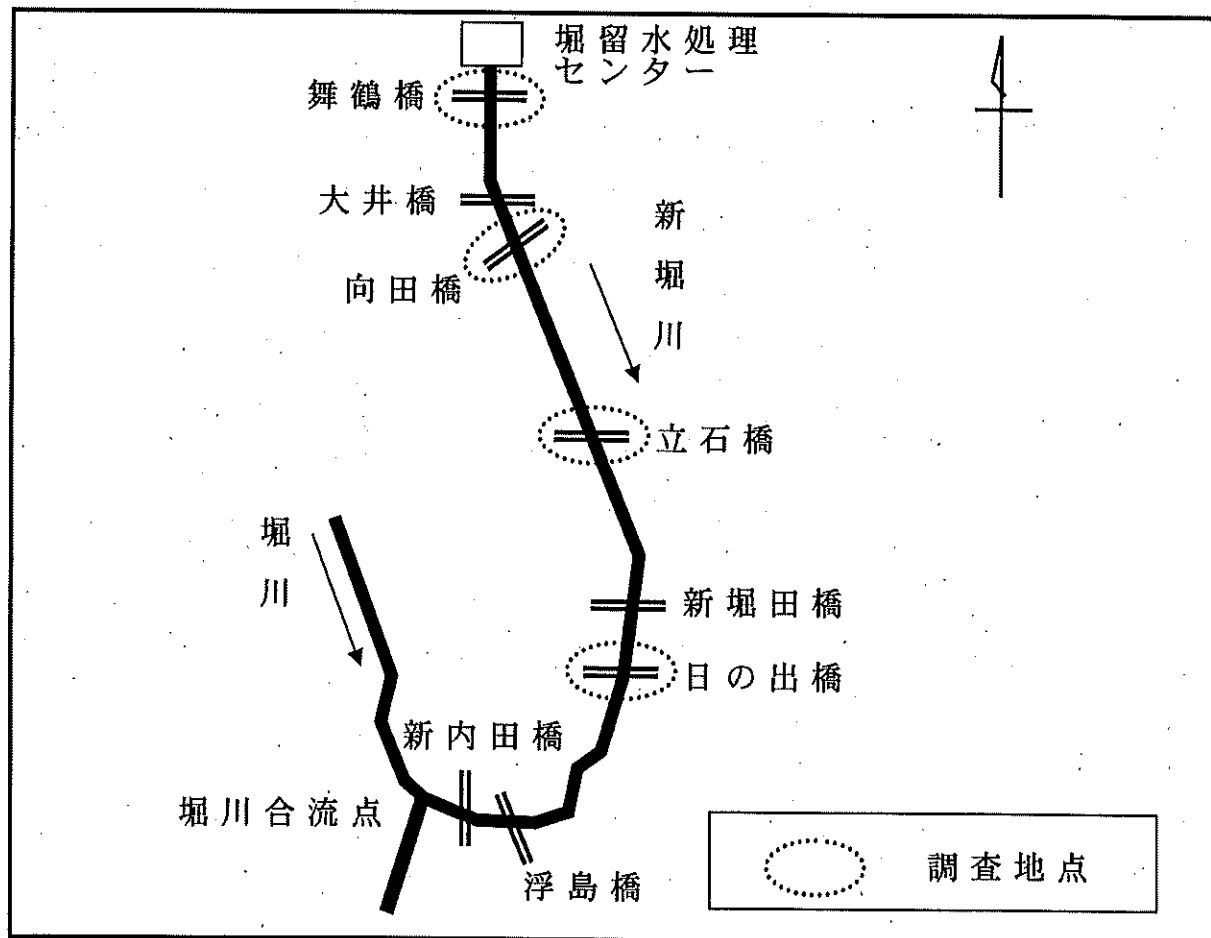
8 新堀川の水質調査結果について

(1) 溶存酸素量 (DO)

調査地点	令和元年度	令和2年度	環境目標値
	mg/L	mg/L	mg/L
舞鶴橋	2.6	2.5	3.0以上
向田橋	2.0	1.8	
立石橋	1.8	2.0	
日の出橋	3.4	2.4	

(注) 溶存酸素量とは、水に溶けている酸素の量

(2) 調査地点



9 庄内緑地スケートパークについて

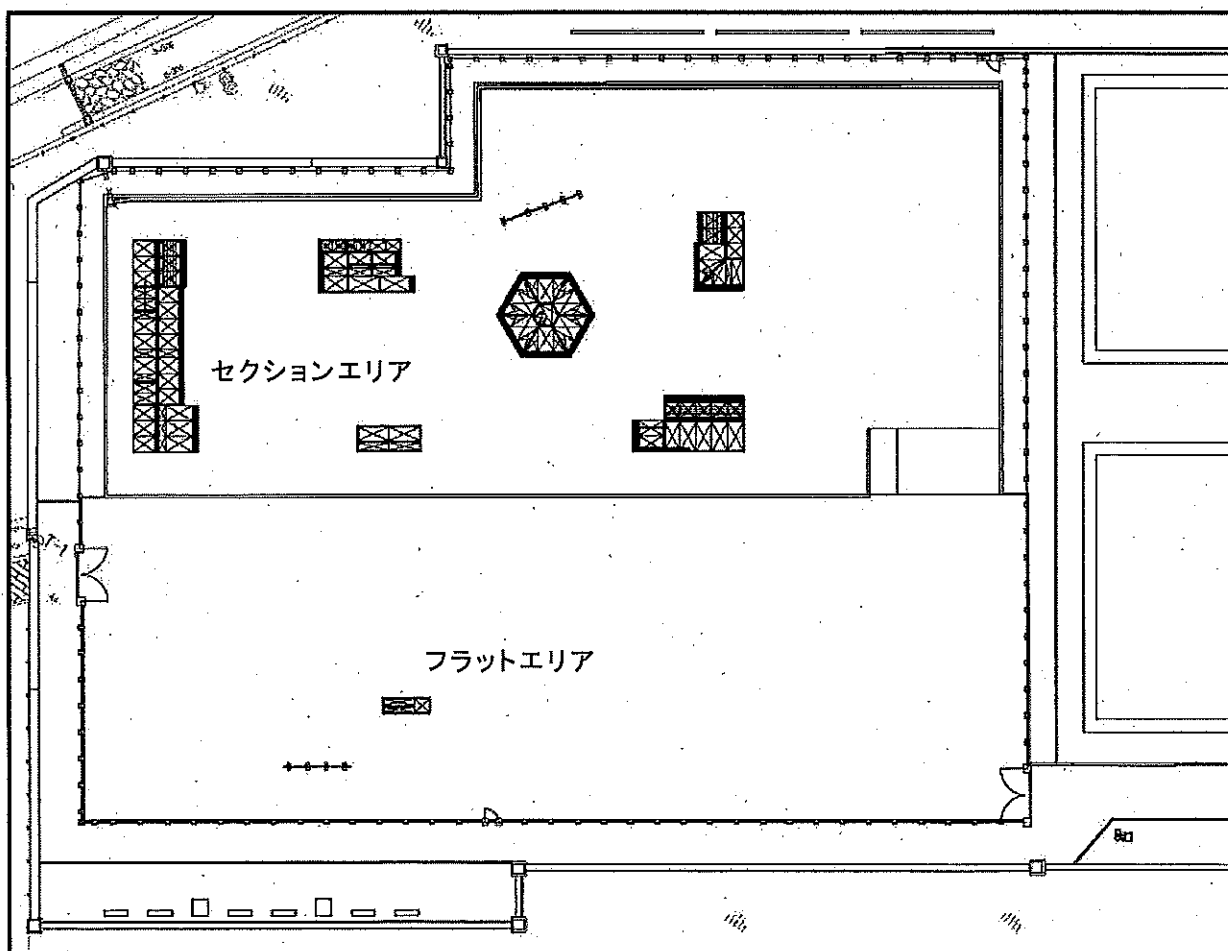
(1) 利用できる種目

スケートボード、BMX、インラインスケート

(2) 登録者数

区 分	令和元年度	令和2年度
新 規	5, 8 9 5 人	4, 3 5 0 人
累 計	5, 8 9 5	1 0, 2 4 5

(3) 平面図



(4) 現場の状況

